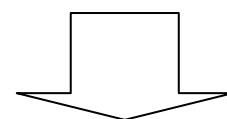


平成30年度授業改善推進プラン

教科 [英語] 科

学習状況の実態・調査結果等を踏まえた内容別・観点別分析表

1 年	2 年	3 年
<p>小学校で英語活動を行っているので、簡単な英語表現や単語などは理解している。文法的なことは理解していないので、文法のきまりや文を読んだり、書いたりする力を付ける必要がある。書く練習は時間がかかるので、学校で練習だけでなく、自宅学習の習慣を付けさせる必要がある。</p>	<p>昨年同様、少人数で授業を実施している。ペアワークを多用し、生徒の発話量を増やす授業形態にした効果もあってか、都の学力調査をかなり上回っている。ただ、ライティングに関してはまだまだ不十分なので、継続的に指導をしていきたい。</p>	<p>昨年度同様、成績の二極化が見られる。基礎の定着がなっていない生徒もいる。生徒の習熟度を考慮し、生徒同士の教えあいや助け合いができる少人数授業を工夫している。定期考査を実施すると、基本的な問題（文法、語彙、リスニング、比較的短い量の読解）には対応出来るが、表現力（語順、構文知識）が不足しているため英作文が苦手な生徒が多い。また、おとなしい生徒が多く、発言する生徒に偏りがみられる。</p>



指導方法の課題分析と具体的な授業改善及び補充指導の計画

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
一年	<p>音を聞いて話の内容を理解することはだいたいできる。文法の決まりは理解出来ていないのでなるべく、文法用語はつかわずに、音声で理解し、文章を書けるまでに練習させる必要がある。文字を読むことは慣れていないので、新出語の読み方を練習した後、本文の音読練習をする。文字を書くことは最も、慣れていないので、単語、本文の写し書きなど授業での練習では、不十分なので、家庭学習の必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音読を丁寧に行い、文法のきまりを音で理解する。 繰り返し基本文の問答を行い、基本文を定着させる。 スペリングコンテストを毎学期行い、基礎単語や基本文を定着させる。 単語テストを単元ごとに行い、単語力をつける。 学期末にはコミュニケーションテストを行い、生徒の会話力の確認をする。 各学期にスピーチの発表を行い、書いたり、話したりする表現力をつける。 家庭学習として、ノート作成、ワークの取り組みを定期的にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストをすることにより、その単元の基礎的な力を確認するとともに、発展的な問題にも取り組み、応用力をつけさせる。 辞書の使い方を授業で練習し、自主的に学習に取り組めるようにする。 歌の聴き取りをした後、ウォームアップとして、その歌を歌い、英語の意欲関心を高める。
二年	<p>キーセンテンスをくり返し生徒が発話できるように授業を組み立てている。基本的に①教師の英語を聞き、意味を類推し、②口頭練習し、③教科書本文を音読する、④キーセンテンスを定着させるための言語活動を行う、⑤キーセンテンスは帯活動、チャンツ、ティーチャーズトークなどでくり返し生徒に使う場面を与え、定着をはかっている。効果は上げているようであるが、ライティングの活動が若干少なくなるので、来学期はライティングの方にシフトしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業は音声、家庭学習はそれに加えて書く活動を生徒に与える。 教科書音読のゴールは、理解ではなく、内容を英語で語れるまで指導する。（リーディングチェック） ペアワーク、グループワークをなるべく多用し、生徒の発話量を増やす。 即興性を見据え、必ず毎時間インフォメーションギャップ活動を行う。 指導と評価の一致を目指す 年間計画を細かく立て、場当たりの指導をなくす。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期からはディクテーションテストを実施し、既習事項を復習させる。 スローラーナーに対する指導を工夫する。 3年生に向けて辞書の使い方を指導する。 チャンツを入れ英語独特のリズムを指導する。 スペリングコンテストを実施し、生徒のモチベーションを高める。 学期末は、プレゼンテーションに関連した活動を企画する
三年	<p>全体的によく取り組んでいる生徒が多い。一方で、アルファベットの音と文字が一致していない生徒も少数いるので、様々なバリエーションでの個々による音読活動およびペアワークやグループワーク等を取り入れ発話量を増やした。学習活動において、受験を意識し、目標が決まったことで意欲が上がってきた生徒が多い。積極的な発話が見受けられるようになった反面、間違いを恐れるため単語のみの答えになったり、主語動詞をいれた一文での答え方をすると、動詞の変化を忘れていたりする生徒もいる。フルセンテンスで答える練習と家庭学習での基礎の定着を図る必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音読指導の充実を引き続き図る。 ALT とのチームティーチングを活用し、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 毎時間の指導のねらいをはっきりさせ、基本的な事項の定着を図る。 身近な事柄について、まとまった文を書かせたり、発表する機会を計画的に取り入れて「自己表現力」を高め、発話の抵抗感をなくす。 英作文においてつまづいている生徒には、易しい日本語に正してから表現活動を行うよう指導する。 活動を多く仕組み、生徒が能動的に学習できるよう計画する。 なるべくオーセンティックな教材・身近な話題を授業に取り入れ、生徒の興味を引く。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアワークを多用し、教え合う、学び合う姿勢を育てる。 スローラーナーに対しては、定期考査前に、試験対策プリントを配布し、学習の支援を行う。 ALT の授業などを活用して、学習した内容の運用をはかる。また、語彙力向上を意識した活動を増やし、実践的なコミュニケーション能力の向上を目指す。